

2号墳

願成寺西墳之越^{がんじょうじにしつかのこし}2号墳は、1号墳の北に寄りそうようにつくられた直径16.5mの円墳で、全長9mの横穴式石室^{えんふん}を持っています。玄室^{よこあな}に水がたまらないように、石を組んだ排水溝^{げんしつ}を羨道^{はいすいこう}に設けているのが特徴で、このような石室は、群中では今のところこの2号墳だけです。

昭和43年に1、66号墳と共に発掘調査を行いました。石室は天井石^{てんじょうせき}が落ちこんで崩れていましたが、崩れ落ちた石の隙間^{くず}に盗掘をまぬがれた副葬品^{くず}がのこっていました。これらの副葬品は玄室の入り口わきに雑然と^{すきま}かためられていて、追葬の際に石室内を「かたづけ」た結果であると思われます。

これらの出土遺物から、2号墳は6世紀末～7世紀初頭頃に1号墳と相前後して築造され、7世紀前半と7世紀中頃にそれぞれ追葬^{ついそう}があったと考えられます。

池田町教育委員会「願成寺西墳之越古墳群資料調査報告書」1999年



2号墳の横穴式石室



盗掘をまぬがれた副葬品



2号墳出土土器